

## 編集後記

## ■編集委員

## 委員長

藤田 郁代

## 副委員長

立石 雅子

阿部 晶子

内田 信也

石坂 郁代

稲本 陽子

勝木 準子

菅野 倫子

倉内 紀子

倉智 雅子

佐藤 睦子

椎名 英貴

中村 光一

長谷川 賢一

原田 由紀

原田 浩美

春原 則子

平島 ユイ

深浦 順一

福岡 達之

藤原 加奈江

水田 秀子

矢守 麻奈

## ■英文要旨の校閲

Gordon BATESON

勝木 準

本誌の創刊は2004年11月であり、この秋で20周年を迎えます。本年度はこれを記念して「特別号」を発行し、特集として「わが国における言語聴覚療法のエビデンス：システムティックレビューによる検討」を組むことにしています。システムティックレビューは類似した研究を一定の基準で選択し品質を評価したうえで、明確な科学的手法によって結果をまとめる研究です。特集ではこの手法を用いて失語、高次脳機能障害、言語発達障害、聴覚障害、発声発語障害、摂食嚥下障害に対するわが国の言語聴覚療法のアウトカムを追究した論文が掲載されます。

言語聴覚療法においては、対象者に最善の訓練・指導・支援を提供することが求められますが、近年、この臨床プロセスとしてエビデンスに基づく臨床が重視されています。言語聴覚分野では、American Speech-Language-Hearing Associationがevidence-based practice (EBP) に関する声明を発表して以降、EBPは世界の言語聴覚臨床に徐々に浸透してきました。わが国でもエビデンスに基づく言語聴覚療法の重要性は認識されているものの、その実践は今一つ進んでいないように思われます。その原因の一つは言語聴覚療法に関するエビデンスを体系的に集積し、それを臨床現場に伝えるインフラが十分に整備されていないことにあるように思います。そこで、本誌編集委員会はこのインフラ整備の一環としてワーキンググループを立ち上げ、総勢44名の協会の協力を得てシステムティックレビューの作成に取り組んできました。この研究成果は誌上だけでなく、本年6月21・22日に開催される第25回日本言語聴覚学会のシンポジウムにおいても発表されることになります。

さて、今号には第24回日本言語聴覚学会における教育講演「救急医と言語聴覚士の繋がり」(竹葉淳氏)、2題のシンポジウム「失語症者向け意思疎通支援事業の現在地点」、「高齢難聴者への支援：現状と言語聴覚士の新たな可能性」が掲載されています。また原著論文では脳損傷患者の談話特徴、養成教育における取り組みが検討され、レポート「現場最前線」ではCOVID-19流行下における愛媛県士会活動が紹介されています。いずれも本分野の臨床・研究を一步前に進める貴重な研究であると思います。

(藤田郁代)

## 言語聴覚研究 (第21巻 第2号) 2024年6月15日発行 [年4回 (3, 6, 9, 12月) 15日発行]

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

1部定価：2,200円 (本体2,000円+税10%)

2024年年間購読料：8,250円 (4冊、税込、送料販売会社負担)

編集・発行：一般社団法人 日本言語聴覚士協会 (会長：深浦順一)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-29 アクロポリス東京9階

(☎ 03-6280-7628 FAX 03-6280-7629) <https://www.jaslht.or.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Acropolis

Tokyo 9F, 6-29 Shinogawamachi, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0814, Japan

©2024, Printed in Japan

制作・販売：(株)医学書院 (代表：金原 俊) <https://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

販売・PR部 ☎ 03-3817-5650 FAX 03-3815-7804

印刷所 (株)真興社

広告取扱 (株)文京メディカル ☎ 03-3817-8036 FAX 03-3817-8044